

飯山市

## (2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果\_飯山市

### 【A. 取り組みの全体像】

1.自治体の概要							
	<b>自治体名</b>		飯山市（長野県）	<b>担当部局名</b>	民生部保健福祉課	<b>人口</b>	19,539（人） <2020.10/国勢調査>
	<b>自治体内連携</b>	<b>庁内連携部局（メイン）</b>	子ども育成課、事業戦略課、公民連携課		<b>庁内連携部局（メンバー）</b>	地域包括支援センター、人権政策課、商工観光課	
		<b>庁内連携内容</b> ※会議体、情報共有	庁内関係部課との横断的な連携体制の構築 社協等、関係機関との連絡調整		<b>庁内連携内容</b> ※会議体、情報共有	必要に応じて、事業内容の展開、関係機関との連絡調整	

2.形成をめざす地方版連携PFの姿					
<b>従前の取り組み</b> ※重層の取り組み、外部組織連携、地域コミュニティ形成等	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護保険制度を利用した集落サロン・オレンジカフェの開催（H19年度～）</li> <li>市・社会福祉協議会・まいさぼ飯山と連携し、ひきこもりの方へ向けた就労支援を実施（H27年度～）</li> <li>ひきこもり調査の実施（H31年度）</li> <li>「いのちつなぐ飯山市自殺対策計画」の策定（R2年度）</li> <li>自殺対策として、若年者相談窓口の設置、訪問支援の実施（NPO法人へ委託、R2年度～）</li> <li>総合窓口相談員の設置、各制度ごとの相談支援機関を総合的にコーディネート（R2年度～）</li> </ul>	<b>実現したい状態</b> ※構築する仕組み／支援対象の住民を取り巻く環境	<b>最終的なゴール</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能な地域社会の実現に向けた<b>すき間なく、切れ目のない相談支援体制の構築。</b></li> <li>ひきこもりにつながる不登校やメンタルの不調など、子どもたちの<b>SOSをキャッチして寄り添う体制の強化。</b></li> <li>8050問題など、多様なケースの<b>情報共有や早期発見ができる連携の強化。</b></li> </ul>	
			<b>今年度のゴール</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの貧困対策や、新たな居場所としての<b>「だれでも食堂」の開設。</b> ※「だれでも食堂」とは、「子ども食堂」の考え方をベースに、子どもからご年配の方まで誰もがふらっと遊びにこられるような場を定期的に設置する取組を指す。</li> </ul>	

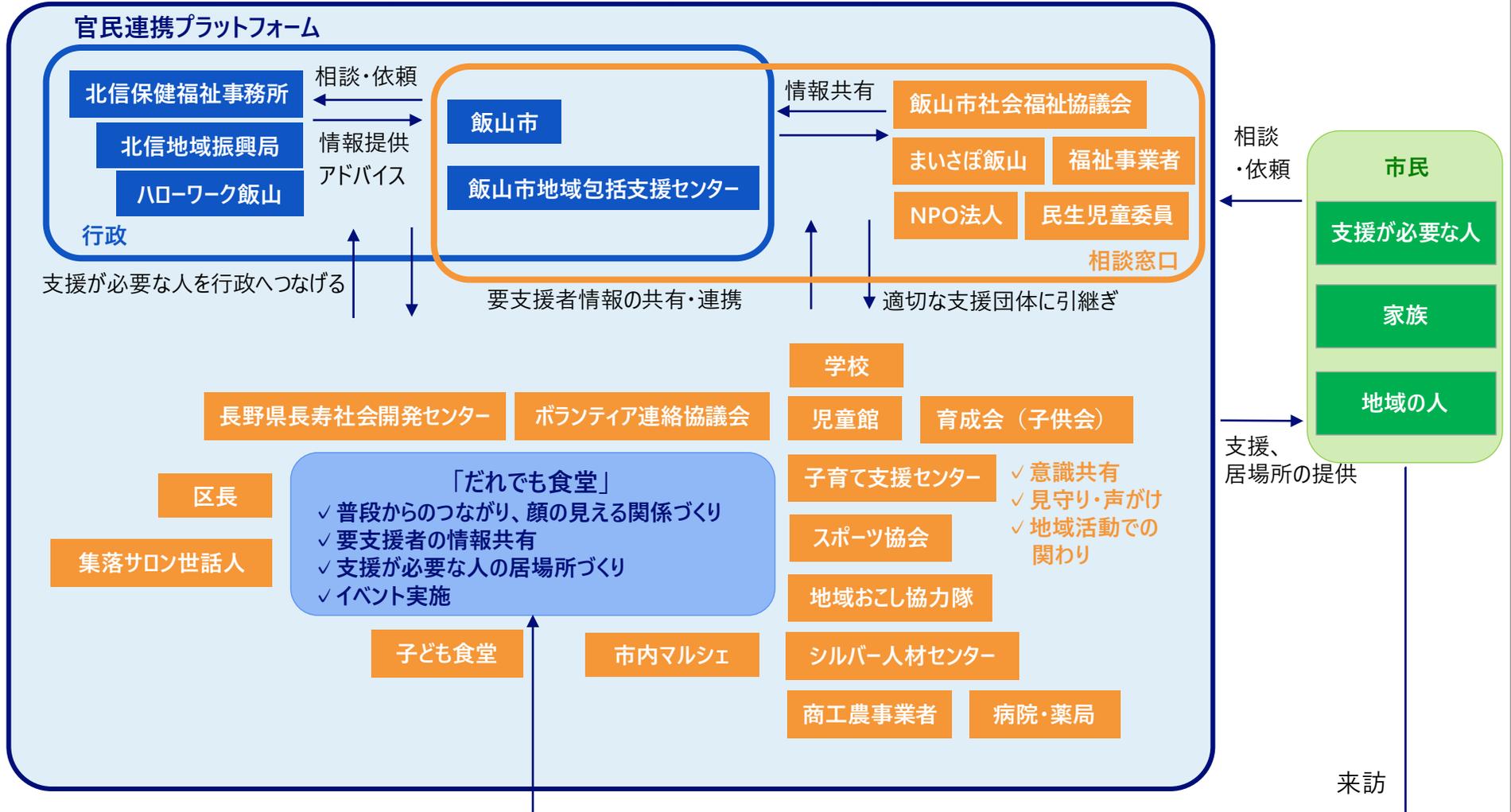
3.地方版連携PFの外部連携体制		
<b>地方版連携PF</b> ※各種団体が「水平的」「包摂的に集う最も大きな枠組み	<b>参画メンバー</b>	行政、民生児童委員、社協、まいさぼ、NPO、ボランティア団体 等
	<b>選出・打診時の工夫</b>	目指している地域づくりに連携不可欠な団体
<b>地域協議会</b> ※特に専門性の高い支援をおこなう団体等で構成	<b>参画メンバー</b>	子ども関連の支援団体、「だれでも食堂」関連の支援団体、その他支援団体や個人
	<b>選出・打診時の工夫</b>	目指している地域づくりに向け専門性の高い団体や個人他、積極的に新規参入を促していく

4.PF連携による価値や工夫_考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>小規模都市ならではの<b>孤独の要因や解消のきっかけ等を解明する。</b></li> <li>すでに孤独・孤立に関連する取組を実施している団体等の把握に加えて、<b>参加意向のある団体等を新たに発掘することで、様々な分野の団体による孤独・孤立PFの形成を検討する。</b></li> <li>孤独に陥っている人だけを救うのではなく、<b>孤独を予防するという観点での居場所づくりにも力を入れる。</b></li> <li>孤独・孤立に係る市内調査の実施・結果報告を行うことで、<b>孤独・孤立は誰にでも起こりえる身近な社会課題だ</b>ということの普及啓発に努める。</li> </ul>

【B.連携PFイメージ】

5. 連携プラットフォームのイメージ図

※主な関係者（自治体、連携先支援団体、住民等）、連携における取組内容、連携による提供価値等を記載



(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果\_飯山市

【C.試行的事業一覧】

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の  
ポイント・工夫

□ 小規模都市・豪雪地帯ならではの「孤独」を調査し、既存の関連プレイヤーに加えて、PFに参画する新たな団体を発掘し、「だれでも食堂」という名の居場所づくりを実現する。

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先 (予算)
1 孤独・孤立に関する調査	<p>【調査対象及び調査対象者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>満18歳以上の個人1,500名</li> <li>10地区の割付が実際の飯山市の人口分布と比例するように回収数を調整</li> </ul> <p>【調査事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>孤独に関する事項、孤立に関する事項、その他関連事項、属性事項</li> </ul> <p>【設問数】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>33問</li> </ul> <p>【調査方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>郵送で調査票を配布し、郵送及びオンライン上で回答できるよう配慮</li> </ul> <p>【有効回収率】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>43.1% (643件)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10地域毎・年代毎の特徴を把握</li> <li>小規模都市ならではの孤独の要因、解消きっかけ等を解明する</li> </ul> <p>成果検証結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内における孤独層の特定 (男性20代、女性30～40代が孤独を感じていることが判明)</li> <li>飯山市ならではの孤独の感じ方の分析 (例：近所の人と顔の見える関係性が築きやすいという飯山市の特徴をよく思っていないの方がよいと思っている方よりも孤独を感じやすい)</li> </ul>	✓ 2023年12月	NPO法人SCOP (約283万円)
2 孤独・孤立対策の地域資源の整理、連携体制の強化	<p>【調査対象及び調査対象者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内の約41団体 (NPO法人、社会福祉法人、一般社団法人等)</li> </ul> <p>【調査事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容、人とのつながりや孤独・孤立に関連する取組の有無、PFへの参画以降等</li> </ul> <p>【調査方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>郵送で調査票を配布</li> </ul> <p>※アンケートの設計にあたり、市内の孤独・孤立の取組に関連するNPO法人へのプレヒアリングを行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の孤独・孤立PFに関連する取組を実施する団体の把握、官民PFに参画意向のある団体等の発掘</li> </ul> <p>成果検証結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>孤独・孤立に関連しそうな団体の数</li> <li>・22団体</li> <li>孤独・孤立にかかる問題に取り組む必要性を感じている団体の数</li> <li>・19団体</li> <li>孤独・孤立にかかる問題に関心のある団体の数</li> <li>・16団体</li> </ul>	✓ 2023年12月～ 2024年1月	- (外注なし)

## (2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果\_飯山市

### 【C.試行的事業一覧】

#### 6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の  
ポイント・工夫

□ 小規模都市・豪雪地帯ならではの「孤独」を調査し、既存の関連プレイヤーに加えて、PFに参画する新たな団体を発掘し、「だれでも食堂」という名の居場所づくりを実現する。

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先（予算）
3 住民に対する 普及活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>「だれでも食堂」の開催前にキックオフイベント（PF決起会・講演会）を実施。</li> <li>講演会の中で、1の調査結果報告を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>孤独・孤立に関する認知度・理解度の向上</li> <li>孤独・孤立に支援を提供できる団体の掘り起こし・巻き込み</li> <li>飯山市として本格的に本テーマに取り組む旨の宣言</li> </ul>	✓ 2024年2月14日	共立プランニング (約116万円)
		<p>成果検証結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 来場人数 84名</li> <li>➢ アンケート回答者の約6～7割が各プログラムに対して「良かった」と回答</li> </ul>		
4 孤独・孤立対策に取り組む NPOや事業者等とのモデル事業実証実験	<ul style="list-style-type: none"> <li>2で発掘したNPO法人や個人と共に「子ども食堂」の考え方をベースに、子どもからご年配の方まで誰もがふらっと遊びにこられるような場を定期的に設置する取組「だれでも食堂」を実施</li> <li>フードドライブとして、使い切れない未使用食品を必要な方に配布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>孤独を予防するという観点での居場所づくり</li> <li>みんなの居場所としての子ども食堂から「だれでも食堂」への発展</li> </ul>	✓ 2024年3月2日	
		<p>成果検証結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 参加人数 約100名</li> <li>➢ 協力団体・個人 15団体</li> <li>➢ フードドライブ提供 米約120キロ 缶詰、乾麺等</li> <li>➢ その他当該取組によって生まれた新たな取組・つながり</li> <li>✓ イベントの趣旨に賛同し、ボランティアとして協力してくれた方の存在</li> <li>✓ フードドライブへの提供</li> </ul>		

#### 7. 次年度以降に向けた事業等の案

※PDCAサイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ（あれば）を例挙

- 第1回PF会議の開催（3/28）
- だれでも食堂（フードドライブ含む）の定期開催
- ボランティア同士の交流

#### 8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

##### キックオフイベント（決起会・講演会）の参加者アンケートからの声

- 飯山市の現状を知ることができ、今後自分に何が出来るか考える機会になった
- 相談窓口はあっても、それ自体を知らない、または知っていても行かない・行けない方がいて、どうすればつながることができるのか、考えさせられた
- だれでも参加できる地域の居場所づくりが必要

##### だれでも食堂の協力団体からの声

- 「一歩を踏み出す」きっかけになった
- やりたい気持ち、やる気はあるものの運営や資金に悩むことがあり、何らかの助成があれば踏み出しやすい

## (2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果\_飯山市

### 【C.試行的事業】1. 孤独・孤立に関する調査

概要

工夫点

- 調査対象者：市内在住の18歳以上の1,500人
- 調査方法：郵送による配布、WEB併用回収
- 調査期間：2023年12月7日（木）～2023年12月29日（金）
- 回収数：643件（うちWeb回答 116件）（回収率：43.1%）
- 豪雪地帯ならではの特徴を捉えた設問設計（外出頻度を春～秋、冬で分けて問う）
- 小規模都市ならではの孤独を問う設問の設計（例：「近所の人と顔の見える関係性が築きやすい」ことを良いと思うか、思わないか別に孤独度を分析）

調査事項

ねらい

- 孤独に関する事項（孤独感（直接/間接質問）、孤独の継続期間等）
- 孤立に関する事項（外出頻度・目的、行動範囲、社会的交流等）
- その他関連事項（困った時に頼れる人や相談相手の有無等）
- 属性事項（年齢、性別、居住地区、出身地、飯山市での居住年数等）
- 10地域毎・年代毎の特徴を把握
- 小規模都市ならではの孤独の要因、解消きっかけ等を解明する

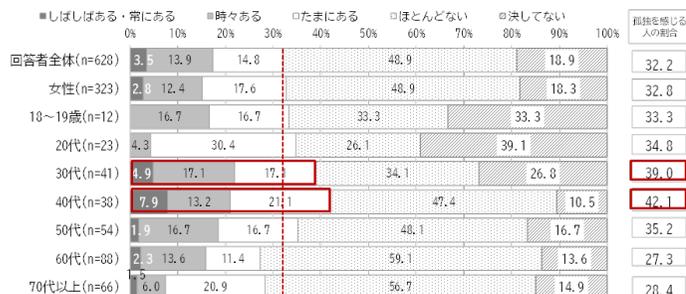
#### 年代別孤独・孤立の実態

- 男性では、20代が50.0%と最も孤独を感じている。女性では、40代が42.1%で最も孤独を感じており、女性全体よりも9.3ポイント高く、30代でも5ポイント以上高くなっている。

<男性/年代別>



<女性/年代別>



※「しばしばある・常にある」「時々ある」「たまにある」を選択した方の割合を「孤独を感じる割合」として算出

#### 小規模都市ならではの孤独

- 回答者全体の孤独を感じる割合と比較し、「『地域・社会とのつながりが深いこと』『近所の人と顔の見える関係性が築きやすいこと』『市内で生活が完結できること』について良いと思わない、どちらともいえない」とする者で孤独を感じる割合が高い。

##### a. 地域・社会とのつながりが深いこと

	孤独を感じる割合	しばしばある・常にある
全体(n=628)	32.2	3.5
良いと思う(n=262)	23.3	1.5
良くないと思う(n=44)	61.4	13.6
どちらともいえない(n=296)	36.1	3.7

##### c. 市内で生活が完結できること (買い物、病院、学校、仕事、娯楽など)

	孤独を感じる割合	しばしばある・常にある
全体(n=628)	32.2	3.5
良いと思う(n=252)	28.6	1.6
良くないと思う(n=155)	39.4	8.4
どちらともいえない(n=202)	32.7	2.0

##### b. 近所の人と顔の見える関係性が築きやすいこと

	孤独を感じる割合	しばしばある・常にある
全体(n=628)	32.2	3.5
良いと思う(n=345)	24.3	1.7
良くないと思う(n=40)	62.5	17.5
どちらともいえない(n=225)	39.1	3.6

## (2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果\_飯山市

### 【C.試行的事業】2. 孤独・孤立対策の地域資源の整理、連携体制の強化

概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査対象者：飯山市内で活動するNPO法人、社会福祉法人、一般社団法人等 41団体（回収数：27件、回収率：65.9%）</li> <li>調査方法：郵送による配布</li> <li>調査期間：2023年12月～2024年1月</li> </ul>	調査事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本情報（活動内容、活動範囲、活動頻度等）</li> <li>孤独・孤立に関する活動について（活動の有無や種類、支援ケース、取組の必要性、関心の有無等）</li> <li>孤独・孤立PFに関する意向（PFへの期待、活動への参加意思等）</li> </ul>
	工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ協会やシルバー人材センターなど、一見孤独・孤立とは関連がなさそうな団体も調査対象に含めることで、幅広い種別の団体の活動内容・意向を把握できるよう努めた</li> <li>公民連携の部署に協力を仰ぎ、市内の多種多様な団体に調査票を配布できるよう工夫した</li> </ul>	ねらい

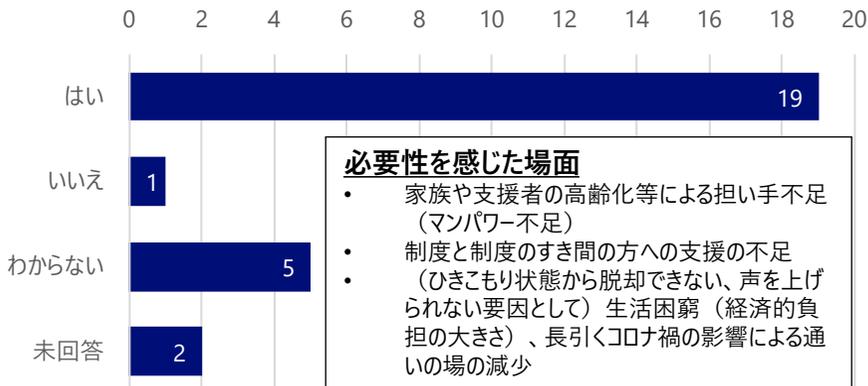
#### 孤独・孤立にかかる問題への関心

- 孤独・孤立にかかる問題に取り組む必要性を感じている団体の数 19団体
- 孤独・孤立にかかる問題に関心のある団体の数 16団体

#### 官民連携プラットフォームへの期待

- 「関係機関との連携・交流」がに関するニーズ多く、続いて、「財源の確保」「サービスの充実・推進」、「制度・助成金・優良事例等の情報収集」という結果が得られた。

#### 孤独・孤立にかかる問題に取り組む必要性を感じていますか



#### 孤独・孤立にかかる問題について官民連携で取り組みプラットフォームへ期待すること ※複数選択可



## (2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果\_飯山市

### 【C.試行的事業】3.住民に対する普及活動

概要

• 名称：飯山市孤独・孤立対策推進キックオフイベント～みんながつながり、支え合う地域の居場所づくりを目指して～

• 日程：2024年2月14日（水）開会14:00、閉会16:00

• 会場：飯山市文化交流館なちゅら 小ホール

工夫点

• 福祉のバックグラウンドに限らず、人とのつながりのために活動している方にパネルディスカッションに参加してもらうことで、誰でも活動の一步が踏み出せることをメッセージとして発信した

• 実態調査の結果を報告することで、市民の孤独・孤立に対する意識を高めた

結果

• 来場人数 84名  
 • アンケート回答者の約6～7割が各プログラムに対して「良かった」と回答

ねらい

• 孤独・孤立に関する認知度・理解度の向上  
 • 孤独・孤立に支援を提供できる団体の掘り起こし・巻き込み  
 • 飯山市として本格的に本テーマに取り組む旨の宣言

#### プログラム内容

- 開会
- 市長挨拶
- 基調講演
- 実態調査報告
- パネルディスカッション

#### 当日の様子



(2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果\_飯山市

【C.試行的事業】4. 孤独・孤立対策に取り組むNPOや事業者等とのモデル事業実証実験

概要

- 名称：だれでも食堂
- 日程：2024年3月2日（土）11:00～14:00
- 会場：飯山市公民館

工夫点

- 食事の提供だけでなく、イベント（コンサート、子供向けリトミックやお話会など）を設けることによって、来場者同士がコミュニケーションを図ったり、一体感を感じられるようにした
- フードドライブとして、使い切れない未使用食品を必要な方に配布するという方法で新たなつながりを創出できるよう工夫した

結果

- 参加人数 約100名
- 協力団体・個人数 15団体  
(食生活改善推進委員会、社会活動グループ、信州いいやま観光局等)

ねらい

- 孤独を予防するという観点での居場所づくり
- みんなの居場所としての子ども食堂から「だれでも食堂」への発展

募集に使用したチラシ

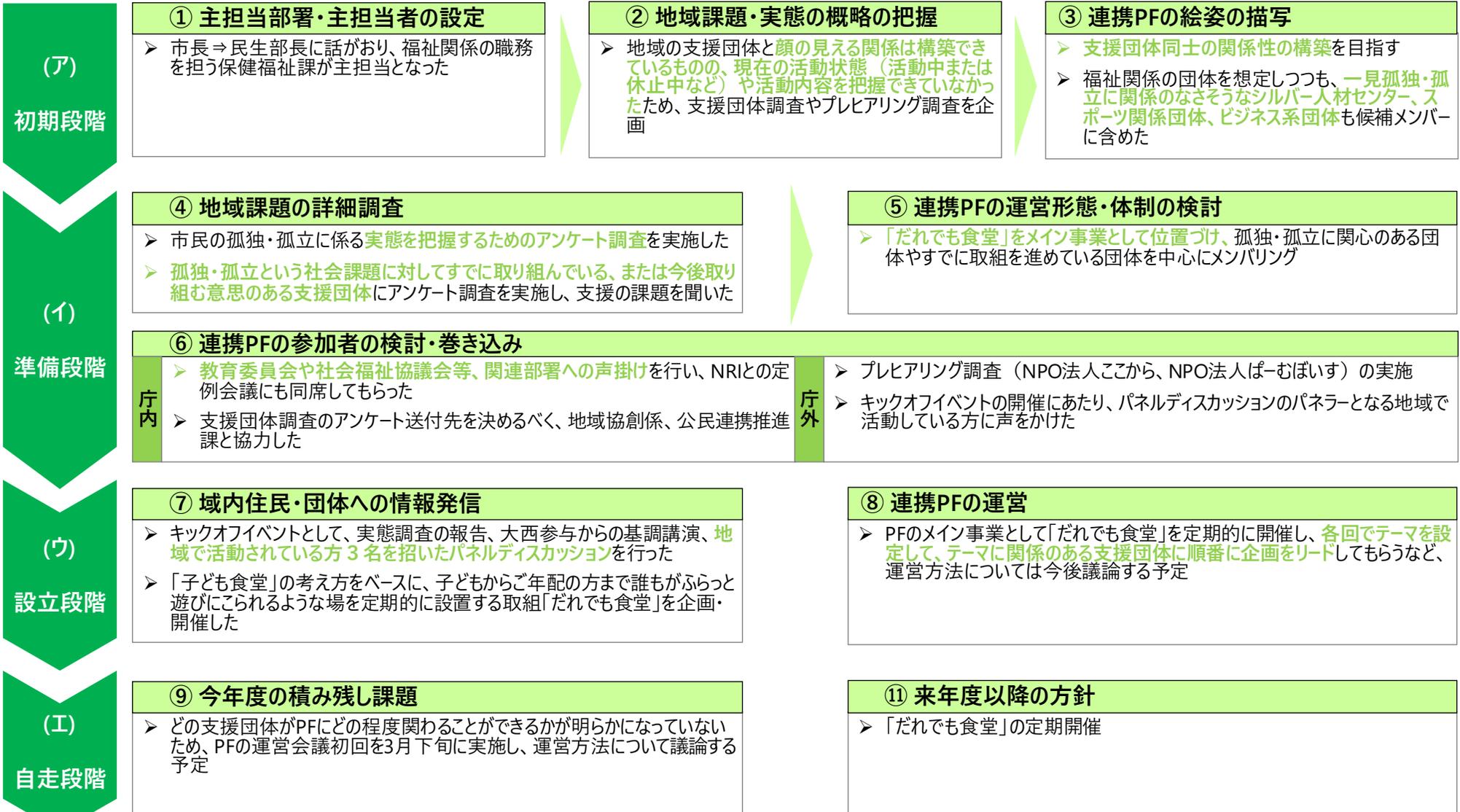


当日の様子



## (2)各地方公共団体で行われた実証事業の実施内容及び成果\_飯山市

### 【D.留意点】



## 【E.ブレイクスルー要因】

2023年8月

### 取り組み課題

- 連携PFを企画設計するためのテーマの欠如
- 地域の団体の活動実態が把握できていない

2023年9月

### アクション／ブレイクスルー要因

- 「だれでも食堂」という構想の発案（保健福祉課をはじめとする職員全員で、PFの在り方や救いたい人をブレストしたところ、食や居場所づくりなどのキーワードが複数出てきたため、当該案に至った）
- 市民に対して孤独・孤立に係る実態調査、市内で活動する支援団体に対して活動内容や孤独・孤立という課題への意向を把握する調査をそれぞれ実施し、実態調査は回収率4割、支援団体調査は回収率6割と、多くの市民・支援団体の声を拾い上げることができるよう設計した

2023年11月以降

### その後の変化

- 居場所づくり、食を通じた支援という大まかなテーマができたことによって、PF設立に必要な団体を想定することが可能となった
- 支援団体調査を実施し、様々な分野の団体が孤独・孤立に関心を持っていることが明らかになったことで、福祉の分野にとどまらないPFの絵姿を描けるようになった